

横浜市のさらなる飛躍に向けた

中期4か年計画（2018-2021）

この計画は、これまでに築いてきた実績を礎に、将来に向けて横浜をさらに飛躍させていくため、2030（平成42）年を展望した中長期的な6つの戦略と4年間に重点的に推進すべき38の政策を取りまとめたものです。9月26日には市会において特別委員会を開き、計画の原案について質疑を行いました。本レポートでは計画の内容について数回にわたり報告してまいります。

中期4か年計画のねらい

計画期間中に横浜市の人口は減少が見込まれています。これまでに経験したことのない社会状況を迎えることから生じる課題や老朽化する公共施設への対応に取組み、安全・安心な市民生活を守らなくてはなりません。一方で、期間中には国際的なビックイベントが開催されるとともに、様々な集客施設やホテルの開業も予定され、企業の本社等の立地も進んでいます。長年取り組んできた道路や鉄道などの都市インフラ整備も進み、利便性の向上も見込まれています。こうしたチャンスを活かし、横浜の魅力を発信し国内外からの来街者増加につなげ、横浜経済の活性化を進めて都市の持続的な成長発展を目指します。

本号では、2030年を展望した横浜の持続的成長・発展を実現するための6つの戦略のうち、①力強い経済成長と文化芸術創造都市の実現と、②花と緑にあふれる環境先進都市の推進に向けた、4年間に取組む政策（1～13）を紹介します。

戦略1 『力強い経済成長と文化芸術創造都市の実現』

中小企業への基礎的支援に加え、さらなる企業誘致への推進や観光・MICE・スポーツの振興により、活力と賑わいのある都市を実現します。 *以下、政策1～8より主な事業を抜粋

●地域に根ざして活躍する商店街・企業の支援、横浜マイスター等の技能職の支援。●海洋都市横浜として海洋に関するビジネス機会の創出や人材育成、産業の振興。●市内企業の海外におけるインフラビジネスを支援。また国際会議を主催することで都市開発に関する国際的な情報拠点を目指す。●外国人材の誘致・定着を促進し、介護分野の活躍を支援。●新たな劇場整備に向け、民間活力を視野に既存施設との相乗効果も考慮した検討・事業化の推進。●横浜の歴史文化を保存・活用し、個性と魅力あるまちづくりを推進、地域活性化につなげる基本構想を策定。●観光客等の快適な滞在環境を実現へ、ユニバーサルツーリズムの推進や公衆無線LAN及び案内サインの整備、多言語・多文化への対応。●国際的なスポーツイベント開催を契機に、一層のスポーツ振興の充実を図るため、地域のスポーツ関係団体等と連携し、年齢や障害の有無にかかわらず、身近な地域でスポーツに親しむ機会を創出。●横浜文化体育館の再整備、関内駅周辺地区のまちづくりの取組と連携したスポーツ振興。

戦略2 『花と緑にあふれた環境先進都市の推進』

花・緑・農・水をいかした市民や企業等の参加によるまちづくりを推進し、地球温暖化対策等の大都市モデルの構築、持続可能な循環型社会の構築を進め、自然共生と経済発展を実現し、魅力ある環境先進都市を目指します。

*以下政策9～13より主な事業を抜粋

●都心臨海部の公園緑地や郊外部の里山ガーデンを中心に花と緑による魅力の創出を進め、各区での花や緑に親しむ活動を支援し「ガーデンネックレス横浜」を推進。●老朽化した公園の再整備を計画的に実施、公園が不足している地域への新たな公園整備（4年間で240か所を想定）。●「環境未来都市・横浜」として進めてきたまちづくりに加え、環境を軸に社会・経済的課題の解決に向けたSDGs未来都市への取組を進める。（*SDGsとは持続可能な世界を実現するための国際的な取組み。）●将来的に安定的にごみを処理するため、新たな工場の整備計画を策定。●「食」を大切にするライフスタイルへ、食べきり協力店事業や食品ロス発生量の調査、食育の推進。●飲食店等における市内産農畜産物の利用促進や直売所等

※次号（11月号）でも引き続き中期4か年計画を取り上げる予定です。